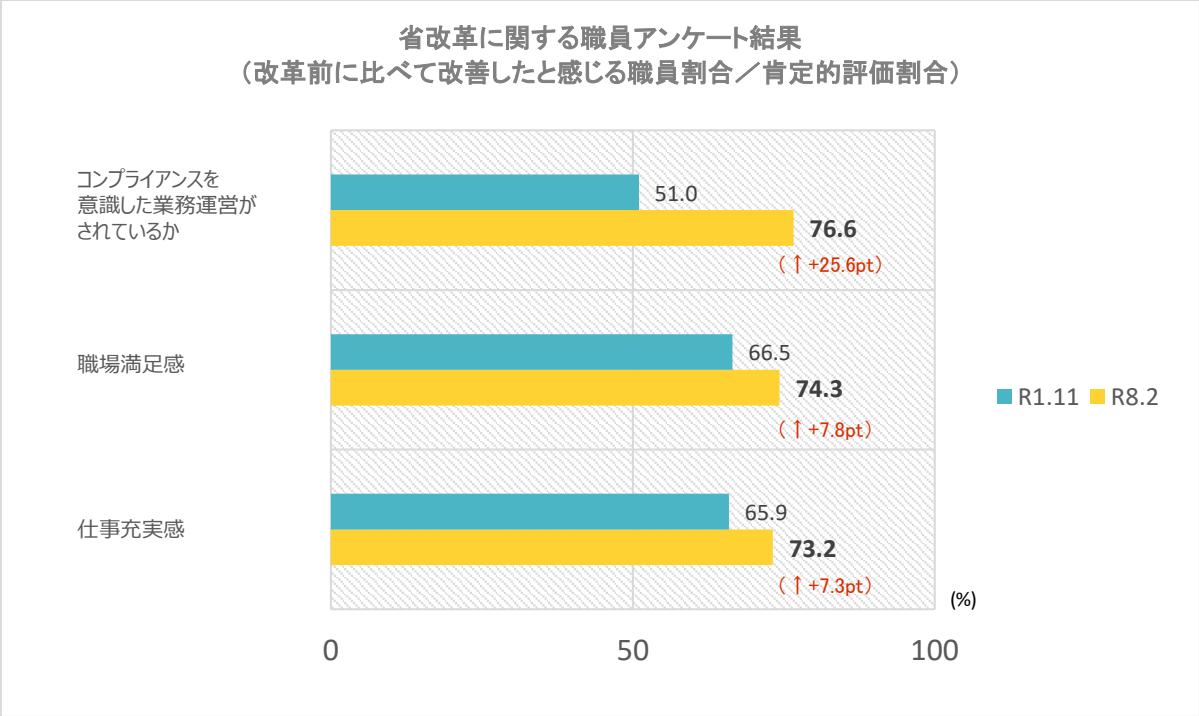
文部科学省創生実行計画に基づく主な取組状況について

○ 「文部科学省創生実行計画（H31.3）」、「業務改善実行計画（R2.1）」及び「文部科学省創生実行計画に関する今後の重点ポイント（R4.12策定・R6.2改訂）」に基づき、省全体で業務改善等の取組を推進してきた。

1. 組織風土改革及び組織体制・ガバナンスの強化

- コンプライアンス関係の各種研修を一体的に実施（国家公務員倫理、ハラスメント、公文書管理、情報セキュリティ、再就職等規制、個人情報保護 等）
- 省改革に関する職員アンケートを毎年実施。職場・仕事への満足度や更なる取組を要する課題等について分析・集計し、省内関係者にフィードバック
- 室長級以上による**「業務運営上の方針」の宣言、公表**
- 令和７年７月、**ミッション・ビジョン・バリュー（MVV）を策定**。文科省の使命やあるべき組織像、職員の行動指針を明確化し、すべての職員がこれらを共有して職務に当たれるようにした



R6年度
94%
コンプライアンス研修の平均受講率

R8.7月時点
78%
「業務運営上の方針」の策定率

■文部科学省MVV

- **文部科学省の使命（ミッション）**
  人と知を育み、次世代の子供に向けて、豊かな未来を紡ぐ
- **文部科学省のあるべき組織像（ビジョン）**
  1．全ての人を大切にする
  2．知の力を活かす
  3．歴史に学び、未来へ挑戦する
- **文部科学省職員の行動指針（バリュー）**
  1．理想を胸に、現実に向き合って行動する
  2．自ら学び続け、立場を超えて協働する
  3．国民の声を受け止め、次世代への責任を果たす
  4．（空欄）

2. 文部科学省を担う人材の強化（人材育成・採用・配置等の改革）

- 局長級～一部の課長補佐級職員への多面観察の実施

人員体制の最適化

- 政策と連動した機構・定員要求を実施し、必要十分な人員体制を確保
- 局横断の人員配置と、採用区分・年次・年齢にとらわれない適材適所の人事配置を実施

働きやすい環境整備

- 育児中職員のため、取得前から復帰までの面談、男性育休に関する研修、両立支援制度の周知を一体的に実施

3. 現場に根差した政策立案機能の強化

省内公募参加プロジェクトの推進

- 若手職員中心のチームによる**「Policy Making for Driving MEXT（ポリメク）」**を通じて、組織横断的・萌芽的な政策課題に対して、所属にとらわれない柔軟な発想の提案を募集

多様な研修機会の充実

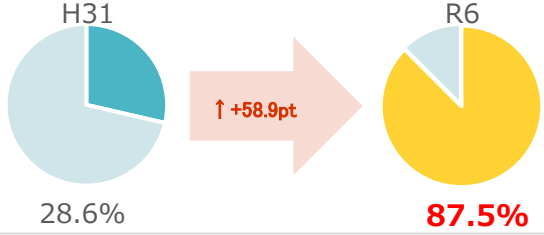
- 外部有識者・民間企業との勉強会を行う**「Driving MEXT Project（ドラメク）研修」**を実施
- 若手職員の教育行政・学校教育等実務研修の実施

■ポリメクチーム例

チーム名	取組内容
寄附検討チーム ※令和8年度より Mext×Funds（メクファン）チームとして独立	寄附文化の醸成や文部科学関係法人における寄附募集活動の後押しを目的として、**寄附ポータルサイトを開設**し、寄附募集に関する好事例について取材を行い、note記事として発信 また、文部科学関係法人と産業界とのネットワーク構築や意見交換等の機会を創出するため、**「Mext×Funds Forum（メクストファンズフォーラム）」を開催**
科学技術 「次の一手」チーム	**第7期科学技術・イノベーション基本計画に盛り込むべき内容**について、現場の教員・大学職員・企業関係者等との議論を通じてまとめ、**CSTI木曜会合において発表** 令和8年度からは、研究現場と文科省若手職員をつなぐコミュニティ形成を進めている
コメクトチーム	文部科学省（MEXT）と学校現場がつながる（Connect）場の構築により効果的な政策を検討するため、**学校現場の教職員との意見交換（コメクトカフェ）等を実施**

男性（常勤職員）の育児休業取得率

※各年度中に子が生まれた職員（育児休業の対象職員に限る）の数（a）に対する同年度中に育児休業をした職員数（b）の割合（b／a）。



■ドラメク研修実施状況

累計開催 **162回** H30～R7

R7年度 **9回** 開催

R7年度 平均満足度 ★**4.45** 5段階評価

■ポリメクチーム　活動内容

Mext×Funds Forum 2025

トークセッションの様子

文部科学関係法人、企業関係者など300名超が来場

寄附ポータルサイト（note）

Commext（コメクト）だより

コメクトカフェを計22回（オンライン21回、対面1回）開催のべ約770人が参加

4. 広報機能の強化

- 広報推進チームによる省内広報誌「メクトーク」での職員インタビューや業務改善の発信により、省内コミュニケーションを活性化

職員の広報スキルの向上

- 「広報戦略アドバイザー」及び「広報なんでも窓口」を設置し、広報戦略から具体的な発信方法まで広く助言・協力
- キャリアの各段階（採用時・２年目・管理職）で広報・報道対応研修を実施。報道機関との対応を通じて、大臣会見の意義や説明責任に関する理解を深めた

対外的な情報発信の強化

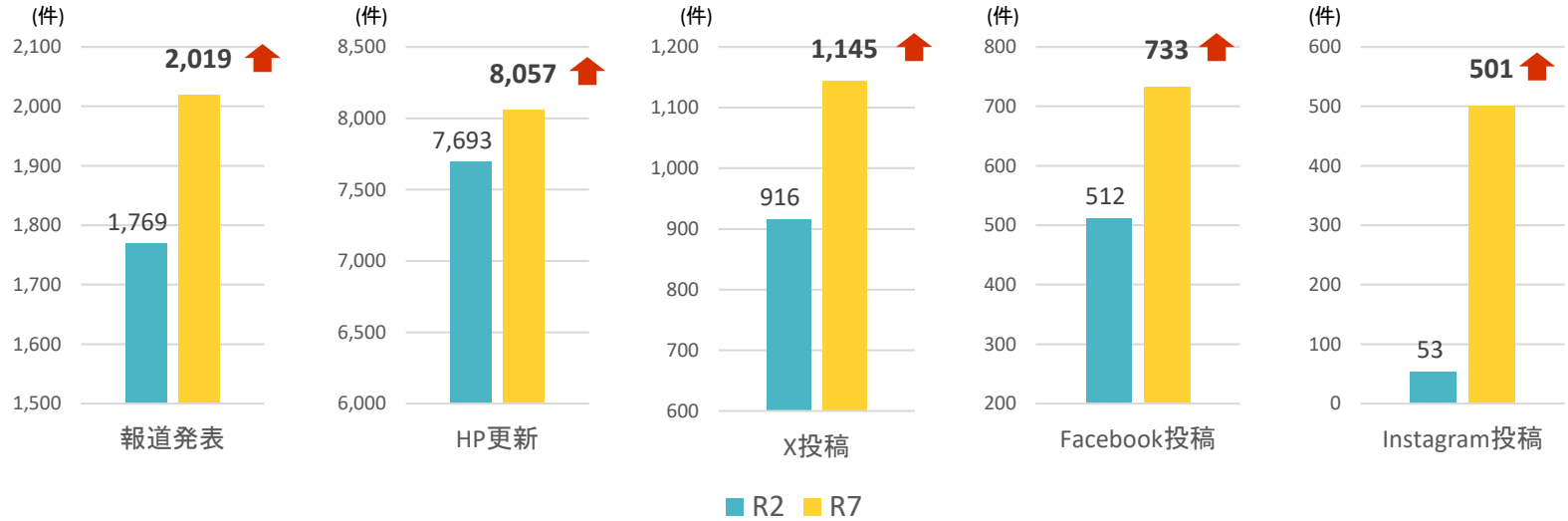
- 文部科学省ホームページを改修し、政策情報へのアクセス性の向上を実施。また、運用ルールを策定
- SNS・動画等や政務三役の視察等を活用した積極的な情報発信
- 広報誌「ミラメク」を通じて、各分野の取組事例やインタビューを発信することで、関係者に有益な情報を提供　※R5.3「文部科学広報」から「ミラメク」にリニューアル

メクトーク

ミラメク

文部科学省SNS

■広報発信実績



10件
メクトーク発行件数
R4.3～R8.3

13件
ミラメク発行件数
R5.3～R8.4

468件
広報相談実施件数
R元.4～R8.6

5. 業務改善の徹底

- 有志職員による「業務改善推進員」を発令し、省横断的な業務改善の取組を推進

端末の整備

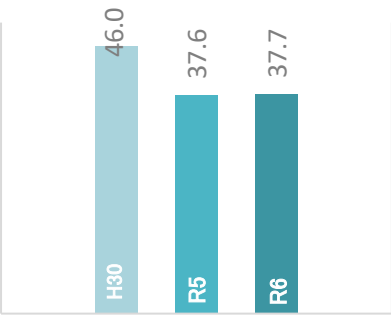
- 令和４年１月より、**Slack・Box等のコミュニケーション／ファイル共有ツール**を導入
  └ 操作方法や業務効率化事例を共有する勉強会の実施、職員間のナレッジ共有用Slackの整備・運用
- 省内業務における生成AI利活用について、令和５年以降、業務改善推進員等を中心に様々な業務で検証
- 令和８年１月より、**高度な生成AI機能等を搭載した新端末**を配布
  └ 生成AIの利活用を推進するため、生成AIポータルの整備、説明会等の実施

11,412件
コールセンター総応答件数
（R7年度）

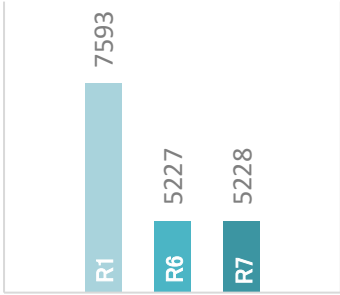
1,357件
資料作成支援サービス枚数
（R7年度）

各種業務における見直し・効率化の推進

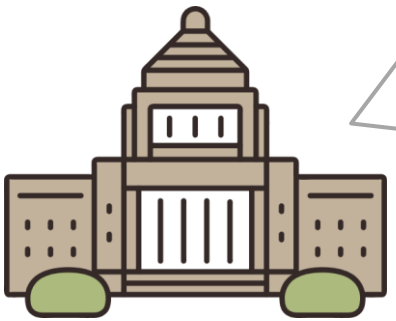
- **国会定期便、コールセンター、資料作成支援サービス**等の導入
- サポートオフィスの各種作業支援による業務のアウトソーシング化
- **会議運営業務**の効率化
  └会議資料のペーパーレス化、会議室や備品予約手続きの見直し
- **国会対応業務**の改善
  └ 質問通告の省内共有方法の改善（FAX→メール等）、答弁持込部数削減
  総務課での確認プロセスの改善（対面→メール、Slack等での進捗共有）、
  作業期限等の周知情報の一元化、国会答弁関係業務オンライン研修会の実施等



定時外在庁時間
（常勤職員1月当たり平均）



コピー用紙使用枚数
（単位：万枚）



- ✓ **遠隔対応による国会業務の柔軟化**
- ✓ **Slackで進捗を“見える化”**
- ✓ **期限等の情報一元化を徹底**

■国会対応答弁持ち込み部数

最大 30部 ❯ 0部 ～ 最大17部

■総務課での確認プロセスの改善

原則 対面で ❯ メール 電話 Slack

- ✓ **一部の答弁は持ち込みではなく電子提出も可能に**
- ✓ **さらに持ち込み時の部数も大幅に削減**

5．業務改善の徹底

環境の整備

- オフィス環境の魅力向上
  - └**パイロットオフィス整備**を通じた試行・検証
  - └各職員が紙資料等の整理・処分に集中して取り組むための**「クリアオフィス・デー」**の実施
  - └会議用iPad・モニター整備によるペーパーレス化の促進
- リモート・対面を併用する**ハイブリッド会議室（3F1特別会議室、16F4会議室）の整備**、会議室備え付けのiPadの整備
- 文化庁京都移転を契機としたオンライン会議の推進
  - └各幹部執務室等へのテレビ会議システムの整備

ワークスタイル変革取組アワード2026
魅力的な職場づくり部門　本省の部
最優秀賞受賞

パイロットオフィス整備第１弾

政策立案機能の向上

パイロットオフィス整備第２弾

『行くのが億劫な職場』から『働きたくなるオフィス』へ。

文化庁（京都庁舎）

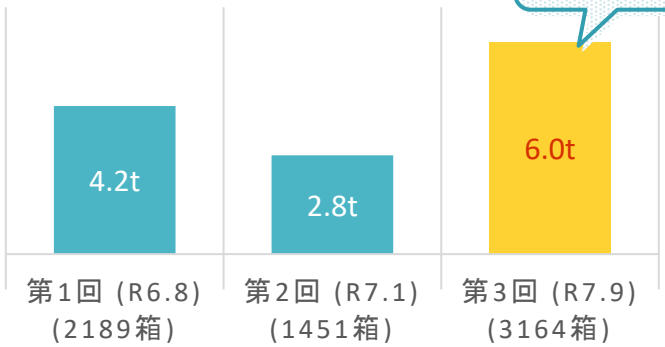
文化庁（京都庁舎）記者会見室

テレビ会議システムによるレクの様子

クリアオフィスデー

クリアオフィスデー処分資料の量

倉庫の片付けも実施



備付けのマイク、カメラ等により、
ハイブリッド会議のセッティングを、
簡易かつより安定的に実施できるようになった

改修後の３F1特別会議室

改修後の16F4会議室